

モダリス



モダリス(4883)が8月3日、マザーズに新規上場した。初値は公開価格比2.1倍の2520円。上場当日の記者会見で森田晴彦代表取締社長と一緒に語った内容のポイントは次の通り。同社は構造生物学領域の世界第一人者である東京大学大学院の瀧木理教授の研究成果を基に、「切らない」ゲノム編集技術「クリッパー・ガンドム技術」を用いて遺伝子疾患の治療薬を開発している。従業員は日本に4人、米国ボストンに13人。研究開発はボストンで行っている。

提携増やし、数多くの遺伝子治療薬を世に送り出す

日本発のリーディングカンパニー……当社は「切らない」リスバー」技術で遺伝子治療薬の開発を行なう日本のリーディング企業。現在、5つの協業バイオラインと、2つの自社バイオラインを保有している。協業モデルは製薬会社とまず共同研究開発契約を結び、上手くいけばライセンス契約に移る流れ。ライセンス契約は第2相臨床試験段階で結ばれるのが一般的だが、遺伝子治療薬は創薬試験段階でのライセンス契約が可能だ。遺伝子治療薬は制御の仕組みが動物と人と同じであることから、動物モデルによる検証で治療薬の成功確率がかかるため。

海外製薬会社との提携増加へ……現在、協業モデルではアステラス製薬、エーザイと、筋肉や中枢神経領域の重篤な疾患を対象に研究開発を行なっている。このほか、さまざまな製薬会社から引き合いを頂いている。遺伝子治療薬を手掛けるのは体力面で日本の製薬会社では上位5、6社に限られるところ、今後は海外製薬会社との提携が増えてこよう。

経常黒字を実現……2016年1月の創業以来、事業収益は拡大を続け、研究開発費の増加や従業員数の増加を吸収して2019年12月期に経常黒字化を実現した。20年12月期

も增收、経常黒字となる見通し。まだサンブルはないが、「5対2」(協業モデル5、自社バイオライン2)のバランスなら黒字を維持できるよう。なお、自社バイオラインの1本について、かなり引き合いが来しており、今後も自社で開発を進めるか、それともライセンスアウェーするかは条件次第による。

数百の遺伝子疾患に優位性あり……黎明期を経て大が子が生まれる遺伝子治療マーケットに、当社は遅すぎず早すぎず、良いタイミングで参入してきた。7000ある遺伝子疾患のうち、我々の技術に優位性があるとみている疾患は100~1000人に上り、我々だけでカバーできない。なるべく多くの治療薬を生み出したく、そのためには製薬会社との提携を惜しまない。

上場後は米投資家も参戦の公算……(米のerule144A)に従事し、米国の適格機関投資家をはじめ世界全体にオファリングをする、いわゆる「グローバル・オファリング」ではなく、米国を除くアジアや欧州などにオファリングをする「旧証券方式(リボウ方式)」のため、米国の投資家はブックビルディングに参加できなかった。上場後は米国の投資家も参加されるようになるのではないか。

エーザイ、高値更新

アーリーハイマー治療薬に進展

トヨタ

トヨタ